平成 29 年度　勝山市地方創生総合戦略及び地方創生交付金等事業における外部評価結果について

1　評価の実施について

地方創生の推進にあたっては、国から、効果的な PDCA サイクルの構築により地方創生総合戦略自体とそれに係る交付金等事業の効果検証を行うこととされている。

本市においては、勝山市地方創生総合戦略と市が採択を受けた地方創生交付金等事業に係る平成 29 年度の事業進捗状況について、外部有識者により構成された「勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」による外部評価を実施した。

2　評価基準

（１）内部評価

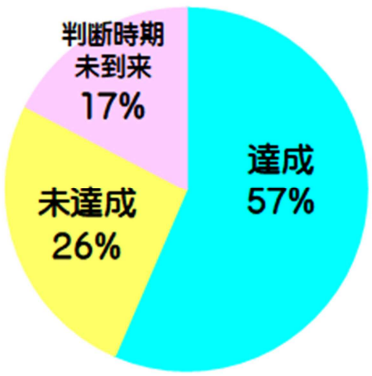
勝山市地方創生総合戦略及び地方創生交付金等事業の重要業績評価指標（KPI）の評価結果について

①　勝山市地方創生総合戦略の重要業績評価指標（KPI）の評価結果（23 項目）

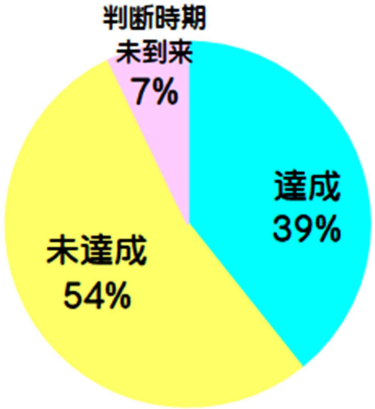
②　地方創生交付金等事業の重要業績評価指標（KPI）の評価結果　（28 項目）

※目標値に対する実績結果により「達成」、「未達成」、「判断時期未到来」を判定

①　勝山市地方創生総合戦略の KPI 評価結果



②　地方創生交付金等事業の KPI 評価結果



（２）外部評価

外部評価は、本市が平成 29 年度に取り組んだ地方創生に資する各事業とその結果である重要業績評価指標（KPI）について、産官学金労言の代表者により構成された「勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」が客観的に評価を行ったものである。

評価にあたっては、効果検証調書（**資料 1・資料 2**）を参考に事務局からの説明の後、有識者目線による効果検証を行なった。

委員から提出された各事業や重要業績評価指標（KPI）に対する多数の意見を資料の「委員の意見欄」に記載し、今後の政策推進の参考とする。

勝山市地方創生総合戦略　平成29年度効果検証調書

資料１

No	担　当　課	担当課	頁
重点戦略 １	ジオパークの豊かな自然と歴史の中に暮らす魅力を高めて、定住化を促進する	ふるさと創生・移住課 ジオパークまちづくり課 農業政策課 未来創造課	1
重点戦略 ２	勝山市の地域資源をさらに磨き、Ｕ・Ｉターンに向けた多様な仕事と需要を生み出すなど、多様なチャレンジが可能な仕組みをつくる	観光政策課 商工振興課 農業政策課 林業振興課 ジオパークまちづくり課	3
重点戦略 ３	縁結びから子育て、教育まで、充実した環境の中で、勝山を誇れる次の世代を育てる	健康長寿課 福祉・児童課 学校教育課 未来創造課	5
重点戦略 ４	豊かな地域コミュニティの中で、いつまでも健康で、安全・安心に暮らせるまちを創る	健康長寿課 市民課 観光政策課 総務課 建設課 ジオパークまちづくり課 未来創造課	7

重点戦略1　ジオパークの豊かな自然と歴史の中に暮らす魅力を高めて、定住化を促進する

① 重点戦略に係る数値目標（KPI）

No	重点戦略に係る数値目標（KPI）	項　目	平成26年度（基準値）	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度（目標値）	達成度	委員の意見
1	転入者人口（人）	目標値	―	427	431	435	439	443	未達成	●目標の達成には届いていないものの、着実に近づいており、今後に期待が持てる。ただし、このような場合に、転出者の実績も記載し、実質的な議論につなげてほしい。 ●転入者数を増加させることは難しく、まずは転出者の食い止めに取り組むことを優先させるべきではないか。 ●今後、事業所における就業者の転入状況の増減についても示してほしい。
		実績値	423	433	420	411				
2	うち市の支援を受けて転入した人の数（人）　※H27～H31累計	目標値	―	3	4	12	16	20	達成	●「支援を受けて転入した人」の定義を具体的に示してほしい。
		実績値	3	3	10	61				

② 重点施策

No	施策名	担当課	内容・実績（平成29年度）	課題と対応策（平成30年度以降）	委員の意見
1	ふるさと勝山への移住・定住促進に関する情報発信の強化	ふるさと創生・移住課	新たなポスター・パンフレット・マップ・動画の製作を行うとともに、全てのコンテンツのキャッチコピーなどイメージを統一した。（従来はバラバラに製作していたため、統一性がなかったことから、参加するフェア等での自治体の印象度アップを狙い実施）	移住・定住に関する情報発信以前に、まずは、勝山市としてのシティプロモーションが重要であると考える。知らない土地に移住はしないということと、ふるさとに戻る場合においても、魅力的なまちづくりが必要であり、長期的な対策として、今後、地域おこし協力隊の協力のもと「住む・遊ぶ・働く」をパッケージ化した新たなPR対策を講じる。	●「住む・遊ぶ・働く」をパッケージ化した新たなPR対策を講じるとあるが、いずれも大切なことであり、ぜひとも優先順位をつけつつ、勝山らしい魅力を全国にPRしてもらいたい。 ●効果を上げるためには内容の充実が不可欠であるが、全国に大きなインパクトを与える発信を行うことも必要であると思う。 ●パッケージ化は重要である。「育てる」項目にも取り組んでほしい。 ●ポスターやパンフレット、動画等の設置・上映場所について、金融機関を活用してもらってよい。情報発信という分野で効果を発揮できるのではないか。 ●まず、地域おこし協力隊に定住いただけるような支援が必要ではないか。そのためには特に、起業支援策が有効であると考える。
2	Ｕ・Ｉターン者の住まいや仕事探しに向けた支援の強化	ふるさと創生・移住課	ふるさと勝山移住定住促進事業として、移住者へ家賃助成等の支援を行ったほか、近隣市町で働く方のためには、市外通勤助成を実施。（家賃助成：12件 1,470千円　　市外通勤：2件 34千円　　引越費用：5件 335千円） また、地方創生交付金を活用し、市内企業の求人を支援するための情報発信ツール（新たな企業紹介冊子やHP）の作成にとりかかった。	市内には住宅手当交付の企業が少ないことに加え、単身用の賃貸物件が少なく、家賃負担を軽減する助成申請が非常に多い。ただ、助成金がインセンティブとなって転入する例はまれで、今後制度の見直しが必要と考える。市内企業の求人支援については、事業への参加企業の増加と魅力的な情報発信に努めていく。	●空き家情報など民間事業者との連携や、地方でも取り組むことのできるIT等の情報発信事業にも力を入れていただきたい。 ●日本の人口が減少し、国策においても外国人労働者をより多く迎えようとしているなかで、このような施策の効果は地理的・経済的・財政的に類似の自治体と比較することにより、その効果を問うべきではないか。 ●企業向け情報誌の内容は非常によく、単年での事業終了は避けてほしい。 ●雇用の創出が不可欠であり、市内企業との連携は必須。 ●企業紹介冊子は好評であり、参加企業のさらなる増加に努めてほしい。 ●勝山市には賃貸物件が少ないとのことであり、空き家の有効活用策を講じるとよいのではないか。
3	勝山暮らし・田舎暮らし体験の充実	ふるさと創生・移住課 農業政策課	○お試し移住体験施設は、全国的に同様のものが増加しているが、現在も一定の利用者がある。（H29:7団体、54泊61日）ただし、移住に直接結びつく例がなく、補助金の終了とともに見直しを検討する。また、県内4市町（勝山、鯖江、越前、美浜）の中で唯一2回の体験ツアー（1泊2日）と1回のロングステイ（7日間）を実施できた。今後は、魅力的なコンテンツの見せ方が重要となってくる。 ○1日～数日間、農家に宿泊しながら農作業等の田舎暮らしを経験する「田舎暮らし体験事業」においては、累計体験人数が目標値を上回り、着実に事業が定着してきた。	○昨今、交流人口を関係人口に、関係人口を定住人口にという段階の重要性が取りざたされている。まずは勝山を知ってもらい、それにあわせて、魅力を十分に伝えるコンテンツのブラッシュアップを図るよう努めていきたい。 ○田舎暮らし体験については、主に5つの体験メニューがあるが、人気のある体験メニューとそうでない体験メニューに差がでてきた。引き続き、受入農家数を増やしながら、魅力ある体験メニューを開発し、申込者の選択肢を広げる。	●とりわけ女性の参画が見込まれる企画が課題ではないか。 ●田舎暮らし体験の取組み自体は、参加者も多く、効果が上がっているようだが、その方々の定住につながっているのか。他のU・Iターン施策もからめて、体験者の移住・定住につなげてほしい。 ●上庄地区では、サトイモ掘りの時期に「猫の手応援隊」を募集し、多数の参加者がいる。取り組む作業の明確化を図っては。 ●移住に結びつく事業と人気のある体験事業メニューとは違ってくるように思う。魅力ある体験メニューが「交流人口⇒関係人口⇒定住人口」とどうつながるのか示してほしい。 ●どの地域においても田舎暮らし体験は行われている。体験メニューをたくさん作成することより、差別化を図り、勝山でしか経験できない体験メニューの開発に取り組んでほしい。 ●移住者の新規就農に係る支援策の拡充を検討してほしい。

4	U・Ｉターンの促進に向けたインセンティブの強化	ふるさと創生・移住課	U・Iターンの促進による地方創生の実現に向け、ふるさと創生・移住課を新設し、補助金制度の拡大等を図った。（上述のとおり） これにより、市の窓口を活用して移住してくる人数は一気に増加した。（～H28：10名、H29：51名）ただし、補助メニューの多くがIターン者向けのものであることを受け、Uターン者向けの新たな補助メニューの創設を検討した。	市の補助制度の活用は年々、増加傾向にあるものの、活用されるものとあまり活用されないものとの差が明確になりつつある。 概ね3年程度の期間で事業を実施し、平成31年度以降、さらにU・Iターンの促進につながるインセンティブとなるものについて、補助金だけに捉われず検討を進める。また、活用されない補助制度については、どこが活用に結びつかないのかも含め、検討・改正を重ねていく。	●中長期的に、勝山市による単独事業にすべきものも見据え、補助制度のうち活用されるもの、活用されないものの具体的要因を研究する必要があるのではないか。 ●年々高齢化する獣害対策者（猟師や獣肉流通）に精通するコアな人材の育成に取り組んでいただきたい。 ●インセンティブについては、何を必要としているのか実際のU・Iターン者にヒアリングすることも必要であると思う。 ●転入者だけでなく、転出者向けのアプローチも不可欠である。
5	地場産業への理解を通じた定住促進	ふるさと創生・移住課	勝山市は、歴史の中で育まれた繊維研究の拠点のまちとしての一面があり、現在も新たな繊維製品を開発し、大手企業等へ提供している。そういった側面はあまり知られておらず、製造業としての認識が強いために、若年層には市内企業の魅力が伝わっていない。このような魅力をわかりやすく伝える情報発信戦略を検討した。	検討結果を踏まえ、新たに作成する企業紹介冊子（全戸・地元高校生配布）やホームページを用いて、情報発信力を強化する。 さらに、企業情報の紹介パンフレットの内容検討や新たなインターンシップ事業の実施を通じて、市内企業の魅力の見せ方を企業とともに研究する。	●可能であれば、推進員のような方々を配置して、生の声で地元（企業等）のPRを学校で行うことができればよいと思う。 ●若年層自身に情報発信を行ってもらう取組みの実施はどうか。 ●小中学生に対する地場産業の教育が必要である。 ●繊維研究都市としての一面を、より派手にPRすることも効果があるのではないか。 ●地場産業の継承者育成をセットで推進すべきではないか。
6	若い世代の流出抑止に向けた専門学校等の誘致	未来創造課	○インターンシップや協定大学の教授を招いた連携アカデミーの実施（2事業） ○GAZOORACING等の各イベントにおけるボランティア協力等の連携 ○福井県立大学と連携ソーシャルワーク実習受入等 ○勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議委員派遣など市の設置する各委員会の委員としての協力・助言。 ○地方創生交付金を活用し、都市圏大学と連携したふるさと動画作成事業の実施を検討。	継続的にインターンシップや講義の講師依頼、各種審議会等への委員参画を実施するなかで大学等との連携を深める。さらに、新たな取組みとして都市圏の大学生と連携したふるさと動画の作成事業について計画的に実施していく。 高度な教育機関という面を活かした行政課題の解決や共同研究等に係る取組みは未だ少ないことから、特に各大学と、その実現に向けた具体的な検討を行う。その中で、誘致に向けた可能性を模索する。	●専門学校等の誘致を進めるのであれば、勝山市に来ることでの相手側のメリットを十分示すべきである。 ●県内・県外大学のゼミと連携し、市の課題解決を研究テーマとしたフィールドワークを実施するなかで、解決策として実現性や効果が高いものを市の目玉施策として取り組んではどうか。 ●県内には学生による施策提案型のコンテストを行っている市町もあり、検討してほしい。
7	国の機関や県等と連携した事業展開	ふるさと創生・移住課	国や県の補助金を活用した事業に多数取り組むことにより、市の財政の圧迫を避けることができることから、活用する事業数は年々増加している。 平成29年度においては、県のロングステイ事業や新ふるさと創造推進事業、国の地方創生交付金事業を活用するなかで、上述の各種事業に取り組んだ。	国、県の補助事業には、都市部の企業と連携を図っているものもあり、一部一過性の取組みに思えるものもある。そういった事業を十分精査し、勝山市の魅力発信、地域経済の発展に結びつく補助については、積極的な活用を図っていく。	●「U・Iターンの促進に向けたインセンティブの強化」等との連携により効率的に運営することも必要ではないか。
8	魅力ある定住先としてのジオパークの魅力発信	ジオパークまちづくり課	まちづくり団体等の独自の視点による、地域資源の保護・保全事業や様々なジオツアー・イベント等の開催により、市内外に対し、ジオパークの魅力発信につながった。さらに、13回にも及ぶジオガイド養成講座の開催により、ガイドの質や意識が向上し、様々なツアー等の魅力の担保となっている。また、市内小中学生に対し、自分たちで考え、発信していく能動的なジオパーク教育を行うことで、勝山市の魅力の再発見や地域アイデンティティなどが醸成されてきた。 ・市民による主体的なまちづくり活動への助成研修　16事業 ・市内小中学校を対象としたジオパーク学習の実施　36回 ・自然体験学習等の実施　参加者数　1,487人 ・ガイド養成講座参加者数　30人	勝山市観光まちづくり株式会社をはじめ、各種団体によるツアーやイベントの開催にあたっては、地域の民間事業者やガイドボランティアとの密接な連携を図り、地域全体の経済の発展につなげる。 引き続き、小中学生に対するジオパーク学習の継続行うとともに、これまでとは逆に子どもから大人へとジオパークの魅力が自然に伝わるような仕掛けづくりに取り組む。 地域の魅力をより一層伝えることのできるガイドの育成を図るとともに、ガイドをシンプルに分かりやすく依頼できるシステムの構築に取り組む。	●「ジオパーク」という言葉の意味合いが言葉からだけでは想像しにくい。取り組んでいる各種事業においてはその点のフォローをしっかり踏まえたうえで実施すべきと考える。 ●一部の組織や民間企業が積極的に活動し、情報発信しているのは分かるが、市民レベルでの活動は不足していると感じる。

③ 重要業績評価指標

No	重要業績評価指標（KPI）	項　目	平成26年度（基準値）	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度（目標値）	達成度	委員の意見
1	田舎暮らし体験者数（人）※H27～H31累計	目標値	―	100	200	300	400	500	達成	●数値が伸びていることはすばらしいが、体験者に対するフォローアップを強化し、移住等の成果にいかに結び付けていくかが重要課題である。
		実績値	98	198	380	561				
2	市内企業説明会に参加した勝山市の高校生の人数（人）	目標値	―	42	44	46	48	50	未達成	●高校生がどんな企業への就職を望み、企業説明会ではどんな話を聞きたいと思っているのかリサーチしてはどうか。
		実績値	38	38	40	39				
3	ＵＩターンに関して国や県と連携して行った事業数（件）※H27～H32累計	目標値	―	1	2	3	4	5	達成	●連携事業のうち、しやすいものとしにくいものを吟味し、スクラップやビルドを行うなかで、ブラッシュアップしていくべき。
		実績値	―	2	5	9				

重点戦略２　勝山市の地域資源をさらに磨き、U･Iターンに向けた多様な仕事と需要を生み出すなど、多様なチャレンジが可能な仕組みをつくる

① 重点戦略に係る数値目標（KPI）

No	重点戦略に係る数値目標（KPI）	項　目	平成26年度（基準値）	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度（目標値）	達成度	委員の意見
1	観光入込客数（万人）	目標値	―	175	180	186	193	200	達成	●数値だけでなく、世代や地域等の傾向を分析することも不可欠である。
		実績値	171	203	199.5	217.6				
2	観光消費額（億円）	目標値	―	28	29	30	32	34	達成	●数値だけでなく、世代や地域等の傾向を分析することも不可欠である。 ●取組み内容が着実に成果につながってきているのだと思う。継続的な取組みに期待する。 ●より掘り下げて、市内で作られた土産品等の消費額を向上させることも必要である。
		実績値	27	27.67	32.5	47.73				

② 重点施策

No	施策名	担当課	内容･実績（平成29年度）	課題と対応策（平成30年度以降）	委員の意見
1	観光まちづくりを進めるDMOの形成	観光政策課	平成28年6月に勝山市観光まちづくり株式会社が設立され、平成29年度より日本版DMO候補法人として本格的な取組みを開始。 4月からはリノベーションされた旧料亭花月楼での食事提供が始まり、まちなか誘客の核として運用している。 【H29実績】　旬祭食祭花月楼の年間売上：31,939千円	平成30年4月より恐竜博物館前の「勝山市ジオターミナル」の営業が開始される。内部に設ける観光コンシェルジュ機能等をフル活用して、恐竜博物館を訪れた観光客をまちなかに送客し、観光消費額の増加を目指す。また、造成した観光ツアーや魅力的な市内スポットを大都市圏で売り込み、集客を促進する。	●花月楼は正直なところ、賑わっていると感じられない。今後のテコ入れ対策を示しながら取り組んでほしい。 ●次回の外部評価時には、ジオターミナルの部門別の売上げを示してほしい。 ●恐竜博物館を訪れた観光客をまちなかに誘客したいのであれば、まちなかにも恐竜を関連付けする必要があるのではないか。
2	勝山市の地域資源を活かした観光・交流拠点の整備	観光政策課	平成29年4月より旧料亭花月楼でのランチ提供が開始され、まちなか観光の核としての運用が開始された。 また、恐竜博物館前の駐車場に飲食・物販と観光交流機能を持つ新たな施設「ジオターミナル」の建設準備を進めた。	新たにジオターミナルの営業が開始され、恐竜博物館を訪れた観光客に対する飲食・物販の提供を行う。 まちなかへの送客増大や平成32年に供用開始を予定する道の駅のソフト・ハード両面の充実に向け、観光まちづくり株式会社と協議・連携し、対応を進める。	●検討はしていると思うが飲食や物販に関し、観光地として選択と集中を図り、「福井県の勝山」ならではのものを提供してもらいたい。全国のどこへ行ってもよく似た物が売られている印象が強い。
3	観光における他市町との連携	観光政策課	○平成28年度に策定した周遊・滞在型観光推進エリア創出計画に基づき、大野市・永平寺町と連携したエリア親子体験ツアーや白山平泉寺1300年開山事業を展開した。 ○広域組織「越前加賀インバウンド推進機構」において、各市町と連携した出向宣伝や海外メディア・旅行エージェントの招聘による営業活動等を実施した。 ○勝山市を中心にえちぜん鉄道沿線4市町や市内企業、金融機関、マスコミが連携して映画「えちてつ物語」を製作。	○効果があまり得られないが、付き合いで加盟しているような広域組織等については脱会を進めており、今後も同様の方針で効率的な組織参画を図る。 ○各市町との連携事業は観光客数やインバウンドの増加に効果を発揮しており、新たな周遊の体験ツアー造成やインバウンド観光の推進に引き続き取り組むとともに、完成した映画「えちてつ物語」をシティプロモーションの重要なツールとして都市圏でのPR活動等に活用する。	●部分的な連携でなく、総合的な連携策を模索してほしい。 ●効果の上がらない連携事業は、離脱することも必要だと思う。 ●大野市･永平寺町ともに魅力的な観光資源に恵まれており、連携内容をしっかり精査してほしい。 ●恐竜博物館は世界に誇る博物館であり、勝山市だけでなく県全体の誇りである。単体での観光戦略にとどまらず、嶺北一円の観光ラインを一層強化すべきである。 ●PR動画「WhiteHealing」はよくできている。短編に動画編集し、CM等に活用するとよいのではないか。
4	インバウンド観光の促進	観光政策課	平成28年に設立された「越前加賀インバウンド推進機構」を中心に、地方創生推進交付金を活用したインバウンド観光推進事業を実施。 ※事業の詳細は、資料2「地方創生交付金　効果検証調書」観光政策課　事業No2・3のとおり	インバウンド対応が遅れており、認知度も低い現状より、海外でのセールスコール・商談会を行うとともに、海外メディアの招聘など情報発信を進める。 ※事業の詳細は、資料2「地方創生交付金　効果検証調書」　観光政策課　事業No2・3のとおり	●一律でなく、国ごとの特徴を踏まえたうえでの戦略が必要である。 ●ターゲットを絞りつつ、海外メディアを招聘し、日本酒や繊維、恐竜といったコンテンツをPRするのはおもしろいのではないか。 ●インバウンドの推進にあたり、語学の得意な主婦層や学生は意外と大勢いるのではないか。県通訳協会と連携してみてはどうか。 ●初めて日本を訪れる外国人旅行者の訪問先は大都市圏が中心である。地方へ足を向ける旅行者は日本慣れしたリピーターが中心であり、勝山市は後者へのアプローチが求められる。 ●日本の生活文化等を体験することができる着地型観光メニューの開発が必要ではないか。その中でも特に、勝山に触れる場面を設け、勝山の良さを知ってもらいたい。

5	観光の産業化に向けた特産品・土産品開発と新たな勝山ブランドの創造	商工振興課 農業政策課	勝山市おもてなし商品開発等支援事業の実施。 ①「恐竜ようかん」の開発 　勝山菓子組合に加盟する菓子店の共同企画で、恐竜をテーマにしたようかん。新たに県立恐竜博物館前にオープンした飲食物販施設「ジオターミナル」と菓子組合加盟店舗で販売。福井国体ではおもてなし商品として、来場者にふるまった。今後は、パッケージの改良等も考え、ジオオターミナルでの継続販売と平成32年度にオープンする道の駅での販売を目指す。 ○「勝山水菜と地場の野菜の手づくり餃子」 　市内事業所が、市の特産品である勝山水菜と地場野菜を使用した「手作り冷凍餃子」を開発し、餃子のタレとしても使用できる地元野向町特産のえごまを使用したラー油をセットとした商品である。パッケージには恐竜をモチーフにしたデザインを使用。今後、道の駅等での販売を目指す。	○平成29年度に引き続き、勝山市おもてなし商品開発等支援事業を実施し、おもてなし商品の開発を支援する。なお、開発された商品が開発のみで終了とならず、持続して販売できるよう、勝山市おもてなし商業支援コーディネーター（中小企業診断士）のアドバイス支援を実施予定。 ○平成31年度にかけて、平成32年度にオープン予定の「道の駅」で販売するテイクアウト商品の開発を支援する。勝山の自然が育んだ食材等を用い、観光客に「名物」として認知され、永く愛される商品の開発を目指す。商品を通じて多くの人達に勝山の魅力を伝え、勝山の地域振興につなげる。	●道の駅の建設箇所は好立地であり、ぜひとも市の顔となる特産品・土産物が欲しい。 ●2020年に道の駅が完成するとのことだが、そもそもPRが不足している。どんな内容なのかがよく分からない。 ●道の駅のPRや婚活プロジェクト等の事業にクラウドファンディングを活用するのも手ではないか。資金調達だけでなく、テストマーケティングや認知度向上にもつながる。 ●土産物を開発することはもちろん必要だが、それを販売するためには量を確保する必要がある。ただし、現状では市内に対応できる事業所は少ないのではないか。
6	農業における収益性と魅力の向上	農業政策課	エゴマを勝山市の特産品とするため、平成29年度より勝山市特産作物生産拡大出荷奨励事業を新たに創設し、エゴマの栽培に取り組む生産者の出荷に対して補助金を交付した。 H29出荷量：1,449.8kg（補助対象者数：28件） ※　H28出荷量：1322.5kg	平成32年度に勝山市の「道の駅」が供用開始となることを見据え、勝山市の既存特産作物の生産拡大と新たな農作物等の特産化が喫緊の課題となっている。そのため、「道の駅」への提供商品に特化した新たな補助メニューの構築を検討する。 　これにより、農業者をはじめとした事業者の収入増加を支援したい。	●JAの取組みとして、勝山産のキク・勝山水菜・若猪野メロン・里芋ほか少量品目など、現在生産する農作物の増産に力を注いでいきたい。 ●道の駅では豊富な種類の農産物が必要である。さらに、一年を通して種類や数量を確保することも必須である。
7	金融機関と連携した地元企業の支援	商工振興課	○中小企業の経営の安定と振興のため、次の支援を実施。 　中小企業振興対策資金　24件　115,380,000円 　小規模企業振興対策資金　6件　17,500,000円 　新規開業資金　2件　18,000,000円 ○「小規模事業者キャッシュレス決済推進事業」の実施。 　増加する県外や外国人観光客の消費喚起を図るため、飲食料品小売店頭でのクレジットカード及び電子マネーの決済端末機の整備を支援。（平成29年度補助金申請者数：4件）	○中小企業への融資については、ここ数年、融資実績が落ちてきている。金融機関への聞き取りや、担当者会議（予定）を実施し、要因の分析を徹底する。また、必要に応じ見直しを行い、中小企業者等が使いやすい制度とし、商工の振興につなげる。 ○小規模事業者キャッシュレス決済推進事業については、平成31年度において、QRコード決済も補助対象とする予定。金融機関と連携し補助事業を周知し、普及に務める。	●消費税の増税に絡み、全国的にキャッシュレス化を進めていかざるをえない状況であり、金融機関との連携など官民一体となった取組みを期待する。 ●各対策資金の投入額は分かるが、今後は具体的な効果がどうであったのか示してほしい。 ●利子補給申請手続きの簡素化が必要ではないか。 ●勝山市は特に、キャッシュレス化に抵抗がある土地柄であると感じる。地元商店等からしっかり理解を得る必要があるが、外国人に対して、キャッシュレス化は必須であると思う。
8	市民のチャレンジを応援	ジオパークまちづくり課	勝山市わがまち助成事業に、市内の若者グループや地域で活動する女性グループ等より新たなチャレンジにつながる5件の申請があった。なかには、（公社）青年会議所の「かつやま魅力発見！ジオツークエスト～探せ！かつやまの宝」といった、楽しみながらジオパークの魅力を親子で楽しむことのできる新しい企画も存在し、ジオパークの新たな活用に向けた可能性が広がった。	次代を担う若者たちの潜在的な欲求に応えられるよう、各地区の若者や女性団体への周知を強化する。	●取組みの新規性はもちろん大切だが、既存のまつり（夏まつりや左義長）の魅力を一層高めるための支援も必要ではないか。

③　重要業績評価指標

No	重要業績評価指標（KPI）	項　目	平成26年度（基準値）	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度（目標値）	達成度	委員の意見
1	勝山市中心市街地への入込客数（万人）	目標値	—	27	27	30	33	40	未達成	●数値だけでなく、世代や地域等の傾向を分析することも不可欠である。 ●どんな方をターゲットとして、中心市街地の魅力を発信していくのか検討する必要もあるのではないか。
		実績値	27	24.7	22.8	23.5				
2	新たに設置する勝山市版DMOの数（組織）	目標値	—	—	—	—	—	1	判断時期未到来	－
		実績値	—	—	—	—				
3	勝山市における外国人延べ宿泊者数（人）	目標値	—	1,860	1,890	1,930	1,980	2,050	達成	●インバウンドの出身国や比率など傾向を分析し、ターゲットを見据えながら各事業に取り組んでほしい。
		実績値	1,840	3,499	2,689	3,721				
4	新たに開発した「かつやま逸品」の数（商品）※H27～H31累計	目標値	—	13	14	14	15	15	達成	
		実績値	13	16	17	19				
5	鳥獣害による被害面積率（%）※米、麦、そばの作付面積比	目標値	—	1%以内を維持	1%以内を維持	1%以内を維持	1%以内を維持	1%以内を維持	達成	●獣害対策における新たな技術・方法の講習会等の開催や駆除頭数の増大に向けた方策を引き続き講じていただきたい。
		実績値	1.37%	1.59%	1.88%	0.73%				
6	市内中高生および若者によるまちづくり団体への助成件数（団体）※H27～H31累計	目標値	—	16	23	31	40	50	達成	●重要な取組みだと思う。もっと積極的な支援を行ってもよいのではないか。
		実績値	10	18	26	31				

重点戦略3　縁結びから子育て、教育まで、充実した環境の中で、勝山を誇れる次の世代を育てる

① 重点戦略に係る数値目標（KPI）

No	重点戦略に係る数値目標（KPI）	項　目	平成26年度（基準値）	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度（目標値）	達成度	委員の意見
1	合計特殊出生率	目標値	―	―	―	―	―	1.65	判断時期未到来	―
		実績値	1.53	―	―	―				

② 重点施策

No	施策名	担当課	内容・実績（平成29年度）	課題と対応策（平成30年度以降）	委員の意見
1	婚活情報発信等の強化	福祉・児童課	福井婚活カフェホームページや市ホームページ、フリー情報誌（県外含む）、市広報を通じた宣伝に加え、市内の企業を訪問し、人事担当者等に結婚相談やイベント紹介を行った。あわせて、市のイベントに参加しやすい環境づくりにも協力いただいた。 【H29実績】　フリー情報誌：5回掲載 企業訪問：12企業（イベント参加者あり）	結婚（交際）は、個人の考え方の違いやプライベートに関することであり、押しつけはできない。相談しやすい体制や男女の交流イベントに参加しやすい環境を整えることが重要であり、今後も、パワハラやセクハラにならない程度に企業への協力を得ながら、引き続き、企業に対し、従業員へのイベント紹介等を実施予定である。	●企画段階から当事者が参加するような仕組みづくりができるとよいのではないか。 ●工夫したイベントの実施例として、企業を巻き込んだ運動会を開催してはどうか。 ●難しい面はあるが、移住・定住を強化するよりも、こちらを重視したほうがより現実的な気もする。 ●近隣市町村との連携強化を図り、相乗効果を狙ってほしい。「婚活」という冠は重いイメージがあり、参加者を制限してしまう可能性がある。あくまでも男女交流の場となるような事業名・事業内容としてほしい。
2	地域行事・活動等を通じた出会いの場の創出	福祉・児童課	○男女の交流イベント　3回（H28：2回） スポーツラフティングとそば打ち体験の交流会：20名 テラリウム作成と食事会の交流会：14名 県外女性と市内男性等との男女交流会：20名（ジオアリーナでのスポーツ交流、市内散策、恐竜博物館、平泉寺散策） ○料理教室　1回　14名（H28：4回） ○イベント終了後の担当職員によるフォローアップの実施	県外女性と市内男性によるまちなか散策やスポーツを取り込んだイベントを実施したところ、特に県外女性からは、非常に高い評価を受け、勝山の住みやすさを理解し定住したいという人も現れた。交際に発展したカップルも生まれたことから、体験型（スポーツ含む）のイベントを取り入れたイベントを継続的に実施予定。	●勝山市の婚活イベントは魅力的な内容が詰まっている。実施にあたっては、まちづくり会社も積極的に活用してほしい。 ●体験型のイベントは効果的であると思う。市内企業の若者に対し、レクレーション感覚で積極的に参加を求めてほしい。
3	子育て支援の充実とPRの強化	健康長寿課	○子育て世代包括支援センターを周知するため、パンフレットを作成し、保育園と連携してPRを行った。（配布数：1,000枚） ○福井勝山総合病院と連携し、新たに産婦健診を開始。（産後2週間健診：9件、1ヶ月健診：22件） ○子ども医療費については、中学校3年生までの自己負担分を完全廃止し、医療費を完全無料化。	○支援センターについては、妊娠期から育児期までの総合相談窓口としての周知を継続し、医療機関や保育園など関連機関との連携体制の強化を図る。特に、JCHO福井勝山総合病院との連携を徹底し、早期に支援が必要な妊産婦への支援につなげる。 ○本市は、子育て環境が充実していながら、そういった状況があまり知られていないことから、周知活動を一層強化する。	●取組内容はすばらしいと思う。さらなるPRの強化が必要である。
4	子育てしながら働く女性への支援	未来創造課	ハローワークやふくい女性財団等の他団体と連携しながら、働いている女性や求職中の女性に向けた講座を開催するにあたり、支援するとともに市民への周知を図った。また、勝山市男女共同ネットワーク主催の講座では、チャイルドルームの設置を行い、子育て期の女性も参加しやすいような体制を整えた。 【H29実績】 ・再就職支援セミナー開催（16名参加　うち10名が勝山市在住） ・ふくい女性財団主催の働く女性に向けたセミナー等を市HPに掲載（5回） ・チャイルドルームの設置を支援（2回）	○他団体と連携を行う中で、毎年、再就職支援セミナーを勝山市において開催することができている。 参加者数は定員の半数程度であり、より多くの対象者に参加を促すためにPRを行っていく。 ○チャイルドルームについては、2回のうち1回のみ利用があった。チャイルドルームの設置は継続しながら、子育て期の男女が参加しやすいような日時・内容での講座を開催する。	●これだけ子育て支援が充実しているならば、もう一歩進めて、例えば赤ちゃんがいても食事を楽しむことのできる環境づくりなどハード・ソフトの両面からまちづくりを進めると観光誘客の面からもよいのではないか。 ●子育て支援策は充実しており、出産可能な病院の確保にぜひとも取り組んでほしい。
5	地域医療体制の充実・確保	健康長寿課	○地域医療に関する講演会を実施し、かかりつけ医の推進と二次医療圏の存続の必要性を周知した。（計5回：342人）なお、講演会参加者に地域医療に関するアンケートを実施し、回答者の84%が市内にかかりつけ医を持っていることが分かった。 ○医療・福祉の人材確保は喫緊の課題であり、その対策として医療福祉人材緊急確保奨励金事業を開始した。（医療：1件　介護：4件）	○かかりつけ医の推進や医療の現状については、今後一層、市民に広く周知する必要があり、社会福祉協議会など地区の各種団体や保健・福祉・介護分野と連携を密にし、より多くの市民を巻き込んだ取組みを新たに実施するなど普及啓発の充実を図る。 ○医療福祉人材緊急確保奨励金事業は、人材確保だけでなく、U・Iターン施策としても効果を発揮することから、医療・福祉機関と情報共有・連携するなかで、計画的に交付していく。	●健康寿命の延伸に向けては、個人による意識改革が重要であり、充実した人生を送るため医療体制の課題等を市民一丸となって共有すべきである。

6	特色ある教育の推進と情報発信の強化	学校教育課	環境教育やふるさと教育を柱としたESDを全小中学校で推進をしたことに加え、取組みの一部を各町（文化祭等）や各校の行事の際に発表した。地域行事への参加率や地域への愛着心の調査結果においては、高い水準を維持しており、いずれも国・県の数値を上回っている。	授業の中に取り入れていくための準備が大事である。活動促進のために、町内のまちづくり団体や公民館といった関係機関とタイアップした事業を増やすなど、連携を一層深めたい。	●少子化の進む中、グローバルな人材の育成等に向けて、きめ細やかで特色ある授業内容の構築に期待する。 ●勝山市の魅力を印象的に伝えることのできる、郷土愛に燃える語りべをより多く発掘することも必要だろう。

③ 重要業績評価指標

No	重要業績評価指標(KPI)	項 目	平成26年度（基準値）	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度（目標値）	達成度	委員の意見
1	市への結婚相談件数（件） ※H27～H31累計	目標値	—	100	200	300	400	500	達成	●相談件数の増加要因の調査と分析結果の活用を。 ●男女別の傾向や相談内容の分析をきちんと行ってほしい。
		実績値	88	170	330	494				
2	市が支援したカップルの婚姻数（組） ※H27～H31累計	目標値	—	5	10	16	23	30	未達成	●支援以前の課題があるように思われる。若年者の定住が最重要課題である。 ●このペースでは厳しい。がんばりどころである。 ●数は少ないながらも、成婚の実績があったことは評価できる。
		実績値	5	5	6	8				
3	市内保育園の待機児童数（人）	目標値	—	0	0	0	0	0	達成	●逆に、児童が少なく保育所運営が難しい地区はないのか。あるのであれば、そういった地区における対応も検討を進めてほしい。
		実績値	0	0	0	0				
4	出生数に対する勝山市出産連携事業を利用した人の割合（%） ※H27～H31累計	目標値	—	42	44	46	48	50	達成	●次回からは、出産連携事業について説明・記載願いたい。
		実績値	40	35.6	50.3	46.9				
5	勝山市に住み続けたい。またはいったん離れてもまた帰ってきたいと思っている中高生の率（%）	目標値	—	—	—	—	—	65%	判断時期未到来	—
		実績値	53%	—	—	—				

重点戦略4　豊かな地域コミュニティの中で、いつまでも健康で、安全・安心に暮らせるまちを創る

① 重点戦略に係る数値目標（KPI）

No	重点戦略に係る数値目標（KPI）	項　目	平成26年度（基準値）	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度（目標値）	達成度	委員の意見
1	勝山市の人口（人）	目標値	―	24,360	23,990	23,640	23,310	23,000	未達成	
		実績値	24,754	24,359	23,978	23,585				

② 重点施策

No	施策名	担当課	内容・実績（平成29年度）	課題と対応策（平成30年度以降）	委員の意見
1	地域医療体制の充実・確保	健康長寿課	※重点戦略3　事業No5　再掲	※重点戦略3　事業No5　再掲	
2	健康長寿の推進	健康長寿課	○健康の駅湯ったり勝山を活用し、健康カラオケを使ったアンチエイジング講座を実施。前年度から事業がスタートし、大変好評であったことから実施回数を大幅に増やしている。（実施回数：44回　参加実人数：126人 延570人） ○平成29年度は、地区サロン活動やアンチエイジング講座、その他の介護予防講座において、運動に加え、近年重視されているフレイル予防の観点から、健康的な食生活や口腔ケア等に係る取組みを実施し、介護予防に取り組んだ。 ○「健康長寿！一番体操教室」については引き続き周知することにより、取組地区を増やすとともに、継続実施できるよう支援を行った。（7地区を継続支援　2地区が新規実施）	アンチエイジング講座や地区サロン活動において、介護予防講座等を継続実施するとともに、元気な高齢者が虚弱にならないようフレイル予防対策を一層推進していく。 まず、市民向けに「フレイル予防」という言葉自体の普及啓発を図った後、フレイルチェックの実施と結果を受けた対策を講じていく。	●「フレイル予防」について、高齢者の個々に性格や環境が異なる。高齢者一般向けというより、個々の高齢者に目を向けた、高齢者それぞれに適したより実行容易なメニューを提供してもらいたい。
3	高齢者支援体制の充実	健康長寿課	○在宅医療・介護の連携策として、主に退院支援を目的として、「退院前カンファレンス聞き取りシート」と「医療・介護の役割の見える化（様式）」の作成を行い、退院時の医療と介護の連携がスムーズに行えるよう整備した。 ○地域ケア個別会議を実施し、多職種の専門家による助言を得ながら、高齢者の自立支援につながるケアプランの作成や支援方法の検討を行った。（4回実施） ○市と各種専門家の認知症初期集中支援チームを設置し、認知症の疑いのある人への支援がスムーズにいくよう体制を整備した。	○在宅医療・介護における医療・介護の連携は確実にとれ始めている。今後は、市民に対し、在宅医療・介護に関する現状や課題の普及啓発を推進するため、各地域において、寸劇を活用した研修会等を行っていく。 ○地域ケア個別会議を継続的に実施し、議論を進めるなかで、高齢者の支援策として、サービス以外にも様々な地域資源が求められる実状が浮き彫りになってきたことから、その課題に対する対応や支援等について検討を進める。	●ケアブレイクが中心となって、商工会議所や地元事業者と連携しながら、高齢者のお買い物支援（注文・宅配・集金）のシステムをなんとか構築してほしい。 ●事業には国の施策が決定的に影響していることは重々承知しているが、要介護者にしろ周りの人々にしろ、どの自治体においても全体のシステムが非常にわかりにくい。住民への分かりやすい説明を心がけてほしい。 ●予防医療については、メニュー間の連携が重要である。
4	利用しやすいバス体系の整備	市民・環境課	○コミュニティバスのダイヤ改正や停留所の新設・移設、京福バス北郷線に代わるコミュニティバスの運行等を実施した。 ○「ケア・ブレイクかっちゃま」との連携事業として、「わたしの時刻表」作成サービス（特に高齢の方向け）を実施した。 ○スマホアプリ「ナビタイム」により、市内バスの時刻表や乗り換え等が検索できるように整備した。 ○高齢者対象のバスの乗り方教室を実施した。（参加者：100人） ○地区からの要望や利用状況を踏まえた「市内観光バス」と「恐竜博物館直通便」のダイヤ見直しを実施した。	○継続的な市民からのニーズの把握と利用実態の検証を行い、より利用しやすいバス路線を構築する。 ○「わたしの時刻表」作成サービスの普及啓発や高齢者対象のバスの乗り方教室の実施などを通じた情報発信については、各地区のサロンや高齢者イベント等に出向いて行うことにより広く市民に対し、バスの利用促進をPRしていく。	●「わたしの時刻表」はとてもよい取組みであり、継続して取り組んでいただきたい。加えて、コンパクトシティのような考え方も今後必要になってくるのではないか。 ●既定路線だけでなく、イベントやサロン活動にあわせた、もっと柔軟な路線対応も検討してほしい。
5	市民が楽しめるレジャー施設・店舗等の充実・誘致	観光政策課	平成29年4月よりリノベーションされた旧料亭花月楼でのビュッフェを開始し、ランチやお茶を楽しめる空間を創出した。新たに、恐竜博物館前にジオターミナルを整備し、おもてなしの充実（食事・お土産の提供やコンシェルジュによる観光案内）を図っていく。	旧料亭花月楼やジオターミナルの効果的な運営に向けて、観光まちづくり株式会社の支援を引き続き行うとともに、平成32年春オープン予定の「道の駅」が魅力的なスペースとなるよう、特に地域振興施設について協議を進める。	●各施設は、本当に市民が楽しむことのできる施設となっているのか。状況を絶えず注視して、対策を講じることが必要である。 ●花月楼において提供する食事について、定番のソースカツ丼やおろしそば、海鮮丼等を置いてもよいのではないか。 ●レジャー施設のまちなかへの誘致が必要ではないか。

6	総合的防災体制の構築	総務課	総合的防災体制の構築に向け、下記の取組みを実施。 【H29実績】 ・地域防災計画の修正に係る広報を各区長会で実施（避難情報の名称変更や一時避難所の新規開設等） ・防災行政無線の増設　3基 ・各地区での防災出前講座の実施　23ヶ所 ・勝山市総合防災訓練の実施（ジオアリーナ） ・防災備蓄品の充実（備蓄水、乾パン、お粥、毛布ほか） ・自主防災組織の新規設立はなかったが、組織間の情報交換等を目的としたネットワークを組織し、新たな組織の設立が活発化するよう、自主防災組織連絡協議会の設立に向けた検討を行った。	○平成30年2月大雪の教訓を参考に、記録誌を作成し「雪害対策計画」を修正する。 ○引き続き総合防災訓練をジオアリーナで実施する。なお、市民の観覧の呼びかけに加え、新たに地域住民がともに参加する形式での訓練を企画・実施する。 ○地区の防災出前講座等において、自主防災組織の役割・重要性を説明し、未設立の地区については設立を呼びかける。 ○H29の検討結果を踏まえ、運営しやすい自主防災組織連絡協議会を設立する。 ・市内空き家についての対策を講じるために「空家等対策協議会」を設立する。	**●総合的な対策はもちろん大切だが、例えば近年多発している洪水災害など災害個々への対策を検討し、市民に示すことも大切である。**
7	雪と共生するまちづくりの推進	建設課 ジオパーク・まちづくり課	○雪に係る各種支援制度について、暮らしのガイドブックや広報かつやまへの掲載を行い、地域への周知を図るとともに、区長には活動実績の写真をつけたチラシを配布し、制度の周知を図った。 ○消雪設備の地元管理に係る助成金（6地区16施設　1,024mに対して4万円～267千円を支給） ○市道等の除雪活動の助成金（2地区増24地区　5,840mに対して除雪延長に応じて245千円を支給） ○邪魔者として捉えられることが多い雪を「地域の魅力ある貴重な地域資源」としてプラスに捉え、「勝山市雪氷熱エネルギー利用促進協議会」が中心となり雪室貯蔵実験等の各種実証実験や「奥越前かつやま雪室」の商標登録など雪を活用した取組み・研究を進めるとともに、小中学生や一般団体へ対しての雪室体験学習を行い、雪の魅力や今後の利用可能性について発信を行った。 ・雪室学習会の開催　4回 ・雪室そばの提供　8店舗参加 ・勝山市雪氷熱エネルギー利用促進協議会の開催 3回	○暮らしのガイドブックや広報かつやまへの掲載を行い、地域への周知を図るとともに、区長には活動実績の写真をつけたチラシを配布し、引き続き制度の周知を図る必要がある。 ○追加路線の要望はあるが、地元による簡易消雪の維持管理に理解が得られず、整備できない路線もある。引き続き簡易消雪設置の条件が整った路線から試行・本設を行う。 ○平成25年度の協議会設立から5年が経過し、各種事業での取組みを重ねてきた結果、「雪室ブランドの確立」という目標や方向性が見えてきた。 　今後は、現在の協議会から一歩前進し、地域が一層活性化していくことを目的に、雪室ブランドの推進・拡大に特化した活動を担う新組織を立ち上げ、勝山市の雪室ブランドを確立する。	

③　重要業績評価指標

No	重要業績評価指標(KPI)	項　目	平成26年度（基準値）	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度（目標値）	達成度	委員の意見
1	防災行政無線整備率（%）（音声が到達する戸数率）	目標値	—	82%	84%	87%	90%	—	**達成**	
		実績値	80%	90.70%	94.10%	94.80%				
2	市内自主防災組織数（組織）	目標値	—	59	65	72	80	—	**未達成**	
		実績値	53	55	61	61				
3	健康寿命の延伸（歳）	目標値	—	男78.7歳 女83.5歳	男78.7歳 女83.5歳	男78.7歳 女83.5歳	男78.8歳 女83.6歳	男78.8歳 女83.6歳	**判断時期未到来**	**—**
		実績値	男78.7歳 女83.5歳	男78.4歳 女83.9歳	男78.46歳 女83.86歳					

地方創生交付金等事業　効果検証調書

資料２

事業No	地方創生交付金　種別	事業名称	担当課	頁
1	地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）実施計画上乗せ交付分タイプⅡ	（仮称）勝山市観光まちづくり会社（公社）の設立事業	観光政策課	1
2	地方創生加速化交付金	越前加賀インバウンド推進事業		
3	地方創生推進交付金	越前加賀インバウンド受け入れ体制等整備事業		2
4	地方創生拠点整備交付金	「勝山ニューホテル」のリニューアルによるリゾートブライダル推進事業		3
5	地方創生拠点整備交付金	勝山温泉センター「水芭蕉」リニューアルによる恐竜観光周遊拠点整備事業		
6	企業版ふるさと納税	勝山市まちなか誘客プロジェクト		4
1	地方創生推進交付金	勝山市観光まちづくり株式会社によるふるさと回帰事業	ふるさと創生・移住課	
1	地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）実施計画上乗せ交付分タイプⅡ	内水面漁業振興計画の策定	農業政策課	5
2	地方創生加速化交付金	九頭竜川鮎の地域ブランド化による漁業振興		
3	地方創生推進交付金	地域ブランド「九頭竜川勝山あゆ」を活かした観光振興事業		6
1	地方創生加速化交付金	福祉発！まちの経済活性化事業	健康長寿課	7
2	地方創生推進交付金	地域包括ケアビジネススタート事業		

地方創生交付金等　効果検証

事業No	事業名称	事業内容	平成29年度の取組内容と実績	実績値を踏まえた事業の今後の方針
1	（仮称）勝山市観光まちづくり会社（公社）の設立事業 【交付金名】 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）実施計画　上乗せ交付分タイプⅡ	○（仮称）勝山市観光まちづくり会社設立に必要な資金・事業運営計画の策定 ○勝山市に所在の登録有形文化財「旧料亭花月楼」のリノベーションに向けた改修費用（耐震含む）を見積もるための調査実施 ○「ゆめおーれ勝山」等への無料公衆無線LAN整備	平成28年に勝山市観光まちづくり株式会社が設立され、平成29年度から日本版ＤＭＯ候補法人として本格的な事業活動を開始。 具体的には、4月からリノベーションされた旧料亭花月楼の営業が始まり、まちなか誘客の核として運用している。また、ソフト面では、まちなかの風情を活かし、お盆時期に「灯りまつり」を開催し、帰省客等の誘客を図った。	平成30年4月に恐竜博物館前に完成する「勝山市ジオターミナル」、平成32年春オープン予定の「道の駅」の3拠点を勝山市観光まちづくり株式会社が一元的にマネジメントすることにより、観光客のまちなか誘客と市全体の観光消費額を増大させる。 また、道の駅のオープンにあわせ、地方創生交付金等を活用し、市内の業者を巻き込んだ新たな土産物の開発を行う。

本事業における重要業績評価指標（単位）		指標値	H27	H28	H29	H30	H31	事業の効果
指標①	まちなか観光客数（万人）	目標値	27	27	30	33	40	未達成
		実績値	24.7	22.8	23.5			

勝山市まち･ひと･しごと創生総合戦略会議　委員の意見

●目標は未達成であるが、観光まちづくり株式会社が3拠点を一元的にマネージメントすることは非常に重要である。今後、3拠点を具体的にどのように結びつけるのか、ターゲットをどこに絞るのかなどしっかり考えてほしい。
●観光の産業化を図る核となる団体である「勝山市観光まちづくり会社」は不可欠であり、活動の発展に大いに期待したい。

事業No	事業名称	事業内容	平成29年度の取組内容と実績	実績値を踏まえた事業の今後の方針
2	越前加賀インバウンド推進事業 【交付金名】 地方創生加速化交付金	4市1町により「越前加賀インバウンド推進機構」を設立し、旅行・広告プロモーションのプロとコラボレーションした観光誘客を推進する。 ○外国人の意向調査分析 ○多言語ツール制作（パンフレット・DVD・HP） ○セールスコール・食事会の開催 ○海外メディア向け広報・プロモーション ○各観光施設向けインバウンドセミナーの実施	これまでの「越前加賀宗教文化街道～祈りの道～推進協議会」を発展させ、新たに官民一体となった広域的組織「越前加賀インバウンド推進機構」を設立し、観光プロモーションビデオやパンフレットの作成、インフォメーションの多言語化を図り、小松空港や関西国際空港等で活用を図ったほか、旅行・広告プロモーションのプロ（JTB）とのコラボレーションにより、海外に向けた宣伝活動、旅行商品の造成、メディア・旅行会社の招聘等を実施し、ほぼ目標を達成することができた。	整備した多言語コンテンツを活用し、毎年セールスコールや招聘等を行うことにより、東アジア・東南アジアに対して継続したプロモーションを行い、越前加賀エリアの認知度向上を図る。 越前加賀エリアの周遊を促進する仕組みづくりを行うと同時に、訪日外国人のデータを収集・分析することによりマーケティングに活かす。

本事業における重要業績評価指標（単位）		指標値	H28	H29	H30	H31	H32	事業の効果
指標①	外国人観光宿泊客数（人）	目標値	3,500	3,800	4,150	4,550	5,000	未達成
		実績値	2,689	3,721				

勝山市まち･ひと･しごと創生総合戦略会議　委員の意見

●越前加賀のネーミングから勝山市を連想できるよう、参加自治体が一体となった情報発信に努めていただきたい。
●広域連携という枠組みのなかで、勝山市の魅力を活かすことができているのか疑問を感じる。特に、宿泊地としての魅力が勝山市にあるのか。そうであれば、そういった点を明確にPRすべきと考える。
●事業内容の精査が必要である。現状は、中途半端ではないか。
●外国人観光客の宿泊者数は確実に増加しており、一定の効果は確認できる。広域観光圏として、観光プラン等の充実を図っていただきたい。

事業No	事業名称	事業内容	平成29年度の取組内容と実績	実績値を踏まえた事業の今後の方針
3	越前加賀インバウンド受け入れ体制等整備事業 【交付金名】 地方創生推進交付金	4市1町により設立した「越前加賀インバウンド推進機構」のDMO化を進めながら、旅行・広告プロモーションのプロとのコラボレーションやICTを活用し、外国人観光客の受け入れ体制と滞在環境の整備を進める。 【平成29年度事業（全5カ年事業】 ○受け入れ体制・滞在型環境整備に関するシステム整備 ○観光ガイド及びコンシェルジュの育成 ○二次交通整備の運行中期計画策定 ○インフォメーション強化システム整備 ○交通拠点を活かした海外誘客戦略の策定 ○広域連携プランの商品販売及び独自運用の検討 ○海外セールスコール開催 ○海外広報・プロモーション実施	○多言語パンフレットを掲載できるデジタル情報スタンド・広域観光情報アプリ等を導入することにより、広域観光情報を発信するとともに、エリアを訪れた外国人観光客の情報データを収集・分析し、マーケティングに活用するためのシステムを整備したほか、観光ガイドや案内所スタッフを対象として、外国人観光客を案内する上で必要な知識を学ぶ研修会を実施した。 ○現在の二次交通について調査し、観光客の行動を予測した乗継ぎ情報を把握することにより、現在の交通アクセスを活用しながら外国人観光客を周遊させるための戦略を策定。それにあわせ、エリア内の主要交通の時刻情報を検索できるパンフレットを制作し、エリア内の案内所や主要スポット、金沢駅案内所に設置した。 ○香港において、訪日団体旅行送客ナンバー1企業であるEGLツアーズの袁社長を招いたインバウンド誘客セミナーを実施したことに加え、「越前加賀旅行体験展」を開催し17,000人の来場を得た。 ○タイで開催された「タイ国際旅行フェア」に出展し、30,404人の来場者にPRを行ったほか、タイ国内の人気番組「SUGOI JAPAN」を招聘し、30分番組を3本製作、国内で放送するとともにYOUTUBEに掲載し、3月30日現在において268,390回再生された。	○平成29年度に導入したデジタル情報スタンドのコンテンツ追加と広域観光アプリの機能追加など内容の拡充により、外国人客の受入・滞在環境体制の整備を推進する。あわせて、マーケティングデータ収集システムの運用と収集データの分析を行い、今後のプロモーション戦略を決定する。 ○広域観光アプリと連携して、観光スポットにQRコードを活用した多言語の案内表示を整備することにより、情報発信の強化を図る。 ○小松空港や福井港等の交通拠点を活かし、小松空港への直行便誘致活動やクルーズ会社への海外誘致活動を行う。 ○越前加賀エリアの民間事業者と連携し、海外旅行エージェントへの営業訪問や商談会の参加、旅行フェア等への出展など現地セールスコールを実施するとともに、海外各メディアに広告を掲載し、越前加賀エリアの認知度向上と誘客を図る。 ○ホームページのコンテンツを拡充し、WEBによる情報発信を強化するとともに、ターゲット国の旅行雑誌への広告掲載やメディア・旅行雑誌記者・有名ブロガー等を招聘し、越前加賀エリアの現地露出を増加させることにより、認知度を向上させる。 ○広域的な観光地経営を行う推進母体（広域DMO）の組成を見据えて、官民を交えたワークショップを開催し、インバウンド事業を核としたビジネスモデルの構築について検討を行う。

本事業における重要業績評価指標（単位）		指標値	H28	H29	H30	H31	H32	事業の効果
指標①	外国人宿泊客数（人/年間） ※増加分のみ記載	目標値	250	300	350	400	450	達成
		実績値	△810	1,032				
指標②	観光入込客数（千人/年間） ※増加分のみ記載	目標値	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	達成
		実績値	△37,666	181,379				

勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議　委員の意見

●アジアの観光客に重点を置くのか、あるいは欧米なのか。両方に重点を置くにせよ、広報の行い方には差が生じると思う。例えば欧米客に対しては、「ロンリープラネット」に掲載する等の策がある。
●多言語パンフレット作成や二次交通の整備は不可欠であると思う。今後も取組みを継続してほしい。
●金沢駅を有効活用するなど、金沢とのコラボレーションは効果的なのではないか。
●インバウンド確保は待ったなしの状況にある。知らない土地に人が来ることはなく、情報発信の強化が不可欠である。
●パンフレットなど紙媒体だけでなく、アプリの製作も有効ではないか。

事業No	事業名称	事業内容	平成29年度の取組内容と実績	実績値を踏まえた事業の今後の方針
4	「勝山ニューホテル」のリニューアルによるリゾートブライダル推進事業 【交付金名】 地方創生拠点整備交付金	勝山ニューホテルを中心として市内の魅力ある観光資源を活用した勝山ならではのロケーションの中で様々な「リゾートブライダル」を提案・PRするとともに、観光地での結婚式後の披露宴会場や参加者の宿泊においてホテルを利用してもらうため、老朽化している箇所の改修を行い魅力を高める。 ○１階リニューアル工事 ○２階リニューアル工事 ○スカイラウンジリニューアル	㈱東急リゾートの要望を踏まえつつ、1階の大幅リニューアル等を実施した。それにあわせ、東急側においても国内外のOTA各社への営業展開や恐竜博物館を絡めたプランの提供を行い、営業実績は前年から大幅に改善している。 婚礼の活用がなかなか無いことが今後の課題となり、それを踏まえた今回の改修を次年度からの事業に活かしたい。	引き続き、㈱東急リゾートと連携を密にし、計画的な施設のリニューアルを行う。H30は施設長寿命化のための機械設備改修と5階客室の一部を改修。 それにあわせ、県外観光客の誘致やリピーターの確保に向け、MICE利用の獲得に向けた営業活動や昼食立ち寄りなど外来客使用の促進といった対策を、東急側と検討しながら展開し、事業の黒字化を目指す。

本事業における重要業績評価指標（単位）		指標値	H28	H29	H30	H31	H32	事業の効果
指標①	勝山ニューホテル売上（千円） ※増加分のみ記載	目標値	41,299	12,166	3,438	6,215	4,438	達成
		実績値	3,774	49,284				
指標②	勝山ニューホテル婚礼組数（組） ※増加分のみ記載	目標値	0	1	1	2	2	未達成
		実績値	2	△ 2				
指標③	勝山ニューホテル宿泊者数（人） ※増加分のみ記載	目標値	1,223	263	263	262	360	達成
		実績値	△885	5,052				

勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議　委員の意見

●ブライダル件数の増加には、ハード整備だけでなく市独自の補助金制度やPRも必要ではないかと考える。食事や宿泊については、市最大の設備を誇り、接客についても好評を得ていると聞いている。
●ブライダルを中心とした事業であるならば、ブライダル関連の売上や宿泊者数を指標にすべきである。ただし、現在のところ、ブライダルに係るPRは全く聞かれず、巨額の事業費が妥当であったのかやや疑問を感じる。
●リゾートブライダルとしてのニーズがどのくらいあるのか疑問であり、情報発信にも工夫が必要なのではないか。
●東急リゾートとの綿密な情報交換・連携に努めながら、取組みを推進してほしい。
●宿泊客数は大幅に増加しており、宿泊機能として一定の評価ができる。
●ホテルにとっては、宿泊者数・売上げともに増加し、一定の改修効果があったのだと思う。ただし、結婚式については、福井市に行って行うケースが圧倒的であり、本ホテルでの実施にあたっては、かなり魅力的なプランが求められる。

事業No	事業名称	事業内容	平成29年度の取組内容と実績	実績値を踏まえた事業の今後の方針
5	勝山温泉センター「水芭蕉」リニューアルによる恐竜観光周遊拠点整備事業 【交付金名】 地方創生拠点整備交付金	市民向けの健康増進施設「勝山温泉センター水芭蕉」を現在の機能を残しつつ、恐竜のイメージにマッチした新たなアミューズメント機能を有する温泉へと改修し、まち全体として進める恐竜ブランド化をさらに加速させる。 ○浴室改修 ○脱衣室内装改修と機械室出入口新設 ○屋外休憩エリア新設 ○地下ピット拝観改修 ○設計監理委託	㈱東急リゾートの要望を踏まえつつ、浴室等大幅リニューアル等を実施した。それにあわせ、東急側においても恐竜博物館エリアの割引券付きチラシ配布、ランチ用の新メニュー開発と提供、簡易宿泊営業の開始など、ソフト面の充実も図り、営業実績は前年から大幅に改善している。 冬季の大雪のため、市外利用者数は減少したが、全体として利用者数は伸びている。	県外観光客向けの情報発信としてホームページ拡充やＳＮＳの強化、スキージャム勝山が行うジオイルミネーションと連携した集客、食堂営業時間延長など東急側とともに検討しながら対策を展開し、事業の黒字化を目指す。

本事業における重要業績評価指標（単位）		指標値	H29	H30	H31	H32	H33	事業の効果
指標①	温泉センター水芭蕉売上（千円） ※増加分のみ記載	目標値	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	未達成
		実績値	9,253					
指標②	温泉センター水芭蕉利用者数（人） ※増加分のみ記載	目標値	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	未達成
		実績値	3,183					
指標③	温泉センター水芭蕉利用者数のうち市外利用者数（人） ※増加分のみ記載	目標値	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	未達成
		実績値	4,525					

勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議　委員の意見

●毎日かかさず来られるお客さんもおり、貴重な施設だと考える。ただし、雨天時における車からの乗降は苦慮するところであり、駐車場から建物へのアクセス上に屋根があるとよいのではないか。
●温泉は家族連れのニーズも大いに考えられる。恐竜博物館との間で、人の流れが生まれるような仕組みを考えてもらいたい。
●根本的に本施設が、観光客向けなのか地元向けなのかをはっきりさせてから整備を進めなければ、なぜ整備するのかという目的があいまいになってしまうのではないか。

事業No	事業名称	事業内容	平成29年度の取組内容と実績	実績値を踏まえた事業の今後の方針
6	勝山市まちなか誘客プロジェクト 企業版ふるさと納税	商工会議所・地元金融機関・地元の若手経営者と行政が協働して設立する勝山市観光まちづくり株式会社が「伝統的な食と文化の魅力」をテーマに地元区民・商店主と連携して実施する拠点施設の整備や着地型観光コースの造成及び都市圏観光業者への企画提案、周辺観光地との二次交通手段の確保等に向けた取組みを「企業版ふるさと納税制度」により支援し、まちなかへの誘客促進や中心市街地のにぎわい再生、観光消費額の拡大（しごとづくり）を図る。 ○旧料亭花月楼整備 ○まちづくり会社による着地型観光コースの造成や都市圏観光業者に対する企画・提案等の取組みに係る支援	平成28年に設立された勝山市観光まちづくり株式会社が勝山市と連携し、まちなかの誘客の拠点施設である旧料亭花月楼を運営するとともに、周辺施設において灯りまつりや白山開山1300年祭関連事業等のイベントを実施し、賑わいを創出した。 また、大都市圏での商談会に参加し、大手旅行業者に対し、観光ツアーの提案や魅力的な観光スポットのプロモーション活動を行った。	まちなかの拠点「花月楼」に加え、平成30年に恐竜博物館前にオープンの「勝山市ジオターミナル」を勝山市観光まちづくり株式会社が一元的にマネジメントし、観光客のまちなか誘客と市全体の観光消費額の増大を図る。 引き続き、大手旅行業者に対するプロモーション活動を行うとともに、まちなかイベントについては、若者から高齢の方まであらゆる方が楽しむことができるものに改良しながら、実施する。

本事業における重要業績評価指標（単位）		指標値	H28	H29	H30	H31	H32	事業の効果
指標①	まちなか誘客プロジェクトによる観光客の増加数（人） ※増加分のみ記載	目標値	2,000	12,000	16,000	22,000		未達成
		実績値	△ 19,520	6,542				
指標②	まちなか誘客プロジェクトによる観光消費額の増（万円） ※増加分のみ記載	目標値	300	2,400	3,200	4,400		未達成
		実績値	△1,358	455				

勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議　委員の意見

●中心街近辺に駐車場が少ないのも、集客が増加しない要因のひとつと考える。中央公園の一部改修や個人所有の空き地を有効活用することを検討してはどうか。また、フリーマーケット等の定期的なイベントを開催することも面白いと思う。
●花月楼と恐竜博物館の間に人の流れが生まれるのかについては、疑問を感じる。花月楼のターゲットをはっきり絞るべきではないか。
●大手の旅行業者が取り扱いたくなるような観光ツアーの提案、あるいは観光スポットのプロモーション活動に取り組み、まちなか観光客と観光消費額の増加に取り組んでほしい。
●恐竜博物館からの誘客に取り組むのであれば、最も多く訪れる子ども連れの客が立ち寄りたくなるような施設やサービスが必要である。

事業No	事業名称	事業内容	平成29年度の取組内容と実績	実績値を踏まえた事業の今後の方針
1	勝山市観光まちづくり株式会社によるふるさと回帰事業 【交付金名】 地方創生推進交付金	勝山市観光まちづくり株式会社が、市内企業や市民、マスコミ、市外（都市圏）の大学生等を巻き込み、産官学金言の連携の基に、人口の社会減に歯止めをかけるため下記の事業を実施する。 ○市内企業や商工会議所とともに市内企業のインターンシップ受入や魅力の発信に向け、ふるさと回帰研究会を開催 ○市内企業のインターンシップ受入事業の実施とPR ○市内企業に係る情報発信 ○ふるさと回帰をテーマとした映画の制作と活用 ○勝山に対する愛着心醸成のためのプロモーション動画制作 ○勝山市観光まちづくり株式会社の運営拠点の１つであり、情報発信の拠点である「ジオターミナル」の整備 ○勝山市観光まちづくり会社の地域商社化に向けた取組み	ふるさと勝山回帰事業では、市内企業に声をかけ、全国でも先駆けて地域の企業を紹介するホームページを立ち上げた鹿児島県長島町から講師を招き、講演会を実施した。その後、体験プログラム実施に賛同した企業4社、商工会議所、まちづくり株式会社、ハローワーク、中小企業診断士による研究会を発足。11月以降、3回の研究会を実施し、後年度の事業のフレームを作成した。	市内企業の魅力を伝えるため、情報発信コンテンツを充実させる。企業紹介冊子や体験プログラムの内容等を伝えるパンフレットのほか、企業説明会で活用していただくためのチラシ、企業を紹介するホームページの作成を進めるとともに、企業の1日体験及び5日体験プログラムを実施する。さらに、研究会から派生した、市内企業による自発的な合同企業見学会の開催も実施する。 企業支援を行うだけでなく、勝山市観光まちづくり株式会社を中心として、民間の視点から勝山市の魅力を発信する地元愛情誌（フリーペーパー）の発行も行っていく。

本事業における重要業績評価指標（単位）		指標値	H29	H30	H31	H32	H33	事業の効果
指標①	勝山市内における新規学卒者の雇用者数　（人／年間） ※増加分のみ記載	目標値	1	2	2	4	4	達成
		実績値	5					
指標②	勝山市への転入者人口数　（人／年間） ※増加分のみ記載	目標値	7	8	8	9	9	未達成
		実績値	△ 9					
指標③	勝山市観光まちづくり会社及び関連会社の雇用者数（人／年間） ※増加分のみ記載	目標値	3	5	1	12	3	達成
		実績値	4					

勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議　委員の意見

●中学生を対象として勝山市に残る理由・条件をディスカッション形式で拾い上げて、参考にすることはできないか。親御さんに市の良いところを積極的に発信し、将来子どもたちに帰ってきてもらうような流れを作ってほしい。
●若者からの視点が不十分なように感じる。高校生や大学生とともにパンフレット作成や情報発信を行うことも有効である。
●企業の人手不足は全国的な傾向であり、U･Iターンの強化策として、ふるさと創生・移住課を設置し、ふるさと回帰に取り組んだことには意義がある。短期間で効果を上げることは難しく、今後も長期的に事業展開を図ってほしい。
●行政側からの企業支援（特に就職面）は本事業により、だいぶ形になってきたと思う。これからは、この流れをいかに企業側の参画に拡大させていくかである。

事業No	事業名称	事業内容	平成29年度の取組内容と実績	実績値を踏まえた事業の今後の方針
1	内水面漁業振興計画の策定 【交付金名】 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）実施計画　上乗せ交付分タイプⅡ	漁業者の収入向上に向け、アユ・イワナ等の食用淡水魚の市場全体及び内水面釣り客等の市場規模を分析し、市場の概況や今後の需給予想を立てるための調査を実施 ○勝山市管内における各魚種の漁獲・遊漁証発行状況等調査 ○福井県を含む全国における遊漁証発行状況及び内水面漁業振興策の状況調査	九頭竜川鮎を地域ブランドとして確立するために策定した内水面漁業振興計画に基づき、急速冷凍機等の購入や「九頭竜川勝山あゆ」の商標登録等のハード・ソフト両事業を展開した。その結果、売上額の増加や雇用創出（1名）につなげることができた。	引き続き、策定した内水面漁業振興計画に基づき、ハード・ソフト両観点から九頭竜川鮎を活かした漁業振興事業を展開し、平成32年度オープン予定の勝山市「道の駅」において、鮎関連商品を出品できるように知名度の向上と集出荷体制の確立を図っていく。

本事業における重要業績評価指標（単位）		指標値	H27	—	—	—	H33	事業の効果
指標①	内水面漁業振興計画に係る事業に関係する漁業者の漁業所得向上（対H26）	目標値	—	—	—	—	10%向上	判断時期未到来
		実績値	—					

勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議　委員の意見

●交付金の有無にかかわらず、成果を活かしながら、今後も事業を継続されるよう努めてほしい。

事業No	事業名称	事業内容	平成29年度の取組内容と実績	実績値を踏まえた事業の今後の方針
2	九頭竜川鮎の地域ブランド化による漁業振興 【交付金名】 地方創生加速化交付金	評価の高まっているアユを活用した漁業所得の向上を図るため、アユの安定供給体制の確保と販路開拓・ブランド化に取り組む。 ○アユの安定的な共同集荷、釣り客からの受入、冷凍から出荷までの体制確立に向けた準備 ○九頭竜川鮎の商標登録と商談会等への参加によ　るPRの実施 ○急速冷凍機や冷凍庫等の購入	急速冷凍機や冷凍庫を整備し、改修した施設を活用して新たに鮎の買取り・販売事業に取り組んだ。また、「九頭竜川勝山あゆ」のブランド化をさらに推進するために、先進地視察や新商品、新パッケージの開発、勝山市観光まちづくり会社との連携強化に取り組んだ。しかしながら、大雨や台風の影響で鮎が流され、漁獲高が減少したため、目標を達成するには至らなかった。	新商品の開発やPRなど勝山産あゆの知名度向上につながる事業を展開しても、大雨や台風の影響に漁獲高が左右され、売上額増加につながらない面がある。河川整備などハード面から漁獲高の安定化を図りつつ、漁獲高低下による全体売上額への影響を回避するため、通年販売する鮎関連商品の開発や「道の駅」を核とした商品販売、鮎イベントの展開、全国に向けた新たな販路開拓を重点的に進め、全体の事業バランスを鮎関連商品の普及促進などソフト事業へ徐々にシフトさせるなかで、売上額の安定化を図る。

本事業における重要業績評価指標（単位）		指標値	H28	H29	H30	H31	H32	事業の効果
指標①	アユによる漁業組合の売上額（千円）	目標値	16,590	17,598	18,606	19,614	20,623	未達成
		実績値	16,918	16,382				

勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議　委員の意見

●漁業協同組合の売上という目標の達成にはなかなか至らないが、台風など自然災害の問題もあり、仕方ない部分もあると思う。ただし、通年販売が可能な商品を開発してそれが、果たしておいしさに直結するのかという点は、あゆブランドの確立に向けて十分注意が必要な部分である。
●勝山のあゆは、かなり認知度が上がっていると感じる。しかし、現状として連休のジオターミナルでの販売はあまりおもわしくなかった。購買意欲がでるように、さらに多方面からブランド化を推し進める必要があると思う。

事業No	事業名称	事業内容	平成29年度の取組内容と実績	実績値を踏まえた事業の今後の方針
3	地域ブランド「九頭竜川勝山あゆ」を活かした観光振興事業 【交付金名】 地方創生推進交付金	鮎のブランド化と安定供給体制の確保、鮎を用いた加工品の開発、県内外への強力なPR活動を実施し、平成32年オープン予定の「道の駅」や市内の飲食店等で鮎が食べられる環境を整える。それにより観光消費額の増加を図り、市内の漁業者や民間事業者等の所得向上につなげるとともに、働く場所の創出を図る。 ○急速冷凍、解凍、保存方法等の品質向上対策 ○鮎の食味品評会への出品 ○イベント等への出店、販売 ○加工品、道の駅弁当等の試作 ○各種検討会議の実施 ○道の駅における出店計画の検討 ○「九頭竜川勝山あゆ」の周知 ○食育事業や環境美化活動に係る取組み	鮎の安定供給体制の確保を目的として、鮎の買取・販売事業を実施した。また、鮎を用いた新商品（鮎御膳）の開発、新たなパッケージデザインの作成、パンフレット等の更新・増刷、さらに県内外へのPR活動や先進地視察等を実施した。それらの取組みが、観光消費額や雇用人数の増加の一助となっていると考える。しかし、天候不順により、鮎の漁獲高が減少し、漁協の売上額の増加には至らなかった。	平成32年度オープン予定の勝山市「道の駅」での出店に向けて、勝山市観光まちづくり株式会社等の関係機関との連携を強化し、「九頭竜川勝山あゆ」のブランド化をさらに進め、鮎の販路開拓・拡大に努める。 また、隣接する大野市漁協や奥越漁協、中部漁協、国、県等とも連携し、勝山漁区だけでなく、九頭竜川全体において鮎のブランド化の取組みを進めていく。

本事業における重要業績評価指標（単位）		指標値	H29	H30	H31	H32	H33	事業の効果
指標①	勝山市漁業協同組合と勝山市観光まちづくり株式会社、事業に関連する民間事業者の社員雇用人数（人／年間） ※増加分のみ記載	目標値	3	7	1	14	4	達成
		実績値	4					
指標②	勝山市漁業協同組合の売り上げ額（遊漁証の販売額と鮎の販売額）（千円／年間） ※増加分のみ記載	目標値	700	750	750	750	750	未達成
		実績値	△ 536					
指標③	観光入込客数（万人／年間） ※増加分のみ記載	目標値	5	5	5	5	5	達成
		実績値	18					
指標③	観光消費額（億円／年間） ※増加分のみ記載	目標値	0.90	0.90	0.92	1.15	1.40	達成
		実績値	15					

勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議　委員の意見

●あゆの特産化を積極的に推進してほしい。地元周知と愛着の醸成に向け、学校給食時に提供するとおもしろいのではないか。
●漁業の付加価値を高め、持続が可能となるような取組みだと思う。あゆといえば勝山というブランドづくりに期待している。
●漁業協同組合の売上目標値には届いていないが、今後の道の駅の展開に向けた基盤事業の1つとして動き始めていると思う。
●気軽に鮎釣りを楽しむことのできる仕組みづくりや常温で持ち帰ることのできる鮎商品の開発・販売に取り組んではどうか。

事業No	事業名称	事業内容	平成29年度の取組内容と実績	実績値を踏まえた事業の今後の方針
1	福祉発！まちの経済活性化事業 【交付金名】 地方創生加速化交付金	医療・看護・介護・福祉等の垣根を越えて高齢者の地域包括ケアを行う任意団体（ケアブレイクかっちゃま）の活動を充実・強化し、介護保険等では対応できない高齢者の生活ニーズを把握し、それを地域経済の活性化に結び付ける。 ○高齢者の生活ニーズ調査実施 ○事業実施主体（ケアブレイクかっちゃま）と事業賛同の地元業者が高齢者ニーズを情報共有し、それをマッチングにつなげるためのHP作成 ○高齢者の生活を支援する商品開発 ○買い物支援等の事業に携わるボランティア等の人材育成に向けた研修や講演会の実施	地方創生加速化交付金事業としては、平成28年度で終了しており、その取組みを発展させ、下記の「地域包括ケアビジネススタート事業」を行っている。	買い物リハビリや終活フェア等の事業を実施し、一定の効果があったことから、平成29年度は地方創生推進交付金事業の採択を受けて事業に取り組み、高齢者の買い物・交通手段の確保と終活・意思を託すプロジェクト（終活イベントや終活相談の実施等による終活支援事業のこと）を実施する。

本事業における重要業績評価指標（単位）		指標値	H28	H29	H30	H31	H32	事業の効果
指標①	健康寿命の延伸（歳）	目標値	男78.4 女83.9	→	→	男78.8 女83.6		判断時期未到来
		実績値	男78.46 女83.86	実績は H31.3				
指標②	ケアブレイクの事業に賛同し認証を受けた事業所数（社）	目標値	10	12	15	20		達成
		実績値	18	23				
指標③	買い物支援サービスを利用した高齢者の数（人）	目標値	10	30	60	100		未達成
		実績値	5	17				
指標④	お助けマン（ボランティア）の養成数（人）	目標値	20	25	35	40		未達成
		実績値	0	6				

勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議　委員の意見

●買い物支援サービスや買い物リハビリは、今後需要が高まっていくのではないか。継続してがんばってもらいたい。

事業No	事業名称	事業内容	平成29年度の取組内容と実績	実績値を踏まえた事業の今後の方針
2	地域包括ケアビジネススタート事業 【交付金名】 地方創生推進交付金	医療・看護・介護・福祉等の垣根を越えて、高齢者の地域包括ケアを実践する任意団体「ケアブレイクかっちゃま」の活動を充実・強化することにより、介護保険等では対応できない高齢者の生活ニーズを正確に把握し、民間企業へフィードバックすることで新たなサービスを構築し、地域経済の活性化につなげていく。 【平成29年度事業（全2カ年事業）】 ○中心市街地に位置する市内唯一のショッピングセンターで買い物をしながらリハビリに取り組むシステムの構築 ○買い物後に商品を自宅まで自力で持ち帰れない高齢者向けの宅配システムにかかるニーズを調査・研究し、地元企業・商店との 　マッチングによる新たなサービス提供システムを構築 ○終末期のニーズ把握や終活に関する相談に対応できるアドバイザー等の人材育成	高齢者の買い物と交通手段の確保 ①買い物リハビリ導入研修事業 　買い物リハビリカートを利用したリハビリモデル事業実施（2デイサービス、1医療機関） ②買い物ボランティア養成事業 　ボランティアや買い物リハビリカートの使用方法に関する研修会の開催 ③買い物宅配ニーズ調査事業（50歳以上　266人対象にアンケート実施） ④マイ時刻表作成サービス試行事業（マイ時刻表作成申請者数37人） 終活、意思を託すプロジェクト ①地域包括フェア（H30.3.4開催）　参加者数　400人　出展者数36団体 ②終活コーディネーターによる終活相談会開催（年6回）	指標①については、ショッピングセンター自体の店舗の変更等があり、目標よりも実績が少なくなった。 　また、年度当初に、実施主体のケア・ブレイクかっちゃまの体制が変わり、平成29年度の事業計画・内容について再検討したため、買い物支援サービスの開始が遅れ、実績値が低くなった。 　しかし、買い物リハビリの実施結果により、高齢者の介護予防への効果やショッピングセンターの売上への影響を検証することができたことから、次年度も、デイサービス事業所等での実施を行うことに加え、地区サロン等の参加者に対しても、ニーズにあわせながら、買い物リハビリの取組みを拡大させていく。 　あわせて、買い物ボランティアや終活フェア・終活相談会を継続実施していく。

本事業における重要業績評価指標（単位）		指標値	H29	H30	H31	H32	H33	事業の効果
指標①	ショッピングセンター売上額（万円） ※増加分のみ記載	目標値	12,175	3,498	3,568	3,640	3,731	未達成
		実績値	5,910					
指標②	ショッピングセンター客数（人） ※増加分のみ記載	目標値	29,804	17,981	18,341	18,707	19,082	達成
		実績値	36,340					
指標③	買い物支援サービスを利用した高齢者数（人） ※増加分のみ記載	目標値	150	300	150	150	150	未達成
		実績値	17					

勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議　委員の意見

●市民農園等を活用した作業を通じて、グループで集まることのできる講座の開設はできないか。
●取組み内容はよいと思うが、地元事業者をはじめ、関係機関と会議をするだけでなく、具体的な事業において目に見える形で連携強化を図る必要がある。